

# 平成30年度 第2回安城市民ギャラリー運営委員会〈議事録〉

平成31年2月14日（木）

午後3時30分から午後4時45分まで  
安城市民ギャラリー 会議室

出席：石川委員、丸山委員、杉浦直委員、近藤委員、香村委員、加藤委員  
大見部長、鈴木課長、峯村係長、澤原専門主査、山本主事、  
荒木社会教育指導員  
(指定管理者) 杉浦由、山口、早川

(敬称略)

## 市民憲章唱和

山本	皆様こんにちは。お忙しい中、定刻までにお集まりいただきありがとうございます。本日の司会進行を務めます、芸術文化系の山本です。よろしくお願ひします。運営委員会の開催に先立ち、安城市民憲章の唱和を行いますので、委員の皆様ご起立ください。それでは、私の「私たちは、」の後に続いてご唱和をお願いします。
	(市民憲章唱和)
山本	ありがとうございました。ご着席ください。

## 1 あいさつ

山本	ただ今から、安城市民ギャラリー運営委員会を開催します。はじめに、運営委員会会長よりごあいさつをいただきたいと思ひます。石川清幸さん、お願ひします。
石川	皆さんこんにちは。寒い中、お集まりいただきましてありがとうございます。市民ギャラリーも年度替わりで、30年度の利用状況、31年度の事業計画と、協議事項も盛りだくさんですので、ご協議をよろしくお願ひします。
山本	ありがとうございました。

## 2 協議事項

### (1) 平成30年度市民ギャラリー利用状況について

山本	それでは「2 協議事項」に入ります。進行につきましては、安城市民ギャラリーの管理及び運営に関する規則第25条第2項に「会長は会務を総理し、会議の議長となる。」とありますので、石川会長にお願ひします。
石川	それでは「(1) 平成30年度市民ギャラリー利用状況について」、事務局から説明をお願いします。

杉浦由	<p>1 ページ目「(1) 平成30年度安城市民ギャラリー利用状況について」、利用状況の表をご覧ください。各展示室の小計に延べ利用者数が出ています。平成29年度は1月末の時点で139,646名ですが、平成30年度は1月末の時点で169,750名と、約3万人の増加が見られます。すでに29年度の総計158,715名を超えています。増加の要因として、セロテープアート展や文化センターの改修により、ギャラリーを利用した団体が4団体増えたことが考えられます。</p> <p>表の下段はギャラリー入館者数で、今年の1月現在で約60,000人、昨年1月時点は約56,000人ですので、こちらでも現時点で超えています。ただ、29年度全体では約7万人で、昨年2、3月で約14,000人の入館者がありました。昨年は、2、3月に新規の利用団体もあり14団体の利用がありました。今年は、2、3月に木のおもちゃ展をはじめ11団体が利用予定です。利用団体数は、29年度の77団体に対して、今年は68団体で終了する予定です。9団体の減少は、現在開催の木のおもちゃ展や文化センター改修終了により、団体数が減少している結果です。</p> <p>利用率の表をご覧ください。29年度展示室の週の平均利用率は約82%、1日単位では約73%です。現在申請の団体が今年の3月まで変更なく使用したと想定すると、30年度展示室の週の平均利用者率は約81.5%、1日単位は約77%となる予定ですので、ほぼ昨年並みの利用率となる予定です。</p> <p>次のページをご覧ください。2、3ページが30年度の利用の予約状況です。また、4、5ページが来年度の展示の予定です。現在の予約状況は約64団体です。</p>
石川	<p>ありがとうございました。(1)の説明に関して何かご質問等がありましたら、お願いします。無ければ次に移ります。</p>

(2) 平成30年度市民ギャラリー事業報告について

石川	<p>「(2) 平成30年度市民ギャラリー事業報告について」、説明をお願いします。</p>
峯村	<p>6～7ページの市が行っている展示についてご説明します。</p> <p>①は、開館15周年記念の企画展として、昨年の6月9日から7月7日までの25日間、市民ギャラリーで行った「瀬畑亮セロテープアート®展2018 in安城」です。セロテープアート作家の瀬畑亮さんを招いて展示をしました。先生方にもご覧いただいたかと思いき、学校見学の時期で多くの学校からも来ていただき、観覧料200円でしたが、9,712名という大変多くの方のご来場となりました。ギャラリーの有料展でこれだけの人数が来たことは初めてでした。作家もPRを一生懸命やっておられたこと、安城にはニチバンさんの工場があることなど、多くのご協力があり、これだけの入場者となりました。展示関係のギャラリートークやワークショップ、指定管理者にご協力いただいたコンサートなど、沢山の事業も展開しました。</p>

	<p>6 ページの下②です。市民ギャラリー企画展「人々の暮らし—日々から切り取る、ひと・まち・しごと—」、こちらは9月28日から10月7日の小中学校の夏休み後の展示です。収蔵品と市内小中学校から「人々の暮らし」というテーマで募集した作品を展示しました。出品は944点、その中から各学校から3点（1校のみ2点）選抜して86点を展示しました。入場者は1,012人です。</p> <p>次のページ、③安美展は、10月26日から11月4日、11月9日から11月18日の前期と後期で開催しました。こちらはほぼ例年通り行いました。</p> <p>④は次回の展示「素材と造形美の融合」です。お手元にチラシをお配りした通り、3月1日から3月16日の14日間で、DE室での展示を予定しています。絵画や工芸、彫刻などの作品展を予定しています。ギャラリーコンサート、ワークショップ等も計画しています。指定管理お願いします。</p>
杉浦由	<p>指定管理事業のアート展示として、①「猪野みのり創作人形教室展」です。歴史博物館で辻村寿三郎展を開催しており、それに関連した展示として、作家の方にご協力いただき開催しました。入場者数が17日間で2,013名、1日平均が118名と大変多くの方にご来場いただきました。</p> <p>②「夢もふくらむバルーンランド」は、最終日3日間で行った夜間開館、ナイトミュージアムのひとつの展示として、7月31日から8月12日の12日間、CDE室で開催しました。バルーンアーティストによるワークショップや、当日参加できるメッセージを書くブースを用意しました。入場者は12日間で4,964名、1日平均が414名と、こちらも多くの方にご来場いただきました。</p> <p>③現在開催中の「木のおもちゃ展」です。1月25日から2月24日までの28日間、全館での展示を予定しています。現在、三連休明けまでの入場者数で、既に3,000人を超えています。作家は、愛知教育大学の教授、木のおもちゃデザイナーである樋口一成先生で、先生のデザインによる木のおもちゃを全館で展示しています。廊下にもユニークなデザインのベンチを展示しています。最終の土日、23、24日には公園内でのマルシェも予定しています。配布したチラシもご覧ください。</p> <p>最後に④「懐かしの“車” 写生&amp;写真作品展」、こちらもチラシを配布していますが、3月27日から4月7日の11日間を予定しています。3月2日の午前10時から午後3時まで、城址公園で写生大会と写真撮影会を行い、その作品を後日ギャラリーにて展示します。こちらは第3回目です。</p>
荒木	<p>続いて美術講座について説明します。引き続き8ページの半ばからご覧ください。前期7つ、後期7つの講座を計画、実施してきました。現在開講中の銅版画・リトグラフ講座以外は終了しています。</p> <p>①②③の銅版画・リトグラフ講座は、第1回の運営委員会でお話しましたが、継続的な受講者が多く、年々参加者が増えているため、今年度の後期講座から、従来の1</p>

	<p>日コースをやめて、午前、午後コースとは別の日に、継続受講を希望する経験者を対象とした特別コースを設けました。9ページの⑩です。⑧⑨⑩が後期の銅版画・リトグラフ講座です。開講当初は、各コースとも定員100%でスタートしましたが、途中で午前コースから特別コースに変わられた方があり、結果として定員確保率は、午前コース93%、午後コース100%、特別コース110%となりました。今まで20名を超える人数で活動していたため、思うように作品制作ができないという声がありましたが、適正人数で活動しやすくなったと、受講生と講師の先生の両方から良い評価をいただいています。</p> <p>また、今年度に限ってですが、2回ある「デッサン講座」のうち1回を人物デッサンから石こう像デッサンにして、デッサン入門講座としました。10ページの⑫です。デッサンの基礎から学びたいという要望に対応したもので、定員を超える応募をいただきました。</p> <p>④の書道入門は、昨年の「楷書」に続いて、今年は「行書」を取り上げました。来年度は「草書」にテーマを変えて行う予定です。</p> <p>⑤の日本画では、「花と装飾」をテーマにしました。現在、創作実習室の廊下に作品を展示していますので、ぜひご覧ください。この日本画以外にも、講座で制作した作品については、銅版画・リトグラフ、書道、それに加えて今年初めて油彩画作品も展示しました。今後も、展示可能な作品は展示していきたいと思います。なお、創作実習室の廊下展示以外に、銅版画・リトグラフ講座の作品については、2年に1度、ギャラリー展示室を使って「版画講座受講者作品展」を行っています。今年はその年にあたり、7月17日から22日の6日間で開催しました。</p>
杉浦由	<p>10ページの下の方をご覧ください。指定管理の美術講座・イベントを紹介します。①季節のアートレッスン「似顔絵イラスト体験講座（中級編）」です。4月に開催した講座で、定員10名に対して参加者10名でした。以前初級編を行ったため、今回は中級編を開催しました。</p> <p>②季節のアートレッスン「型紙作りから染色まで～型染めの技を学ぶ～」という染色の講座を、連続講座で開催しました。5月20日、27日、6月3日の3回にわたり工程を体験しました。実際定員10名のところに大変応募者が多く、講師の方にご相談し13名で開催しました。</p> <p>セロテープアート展の関連事業としてギャラリーコンサートを開催しました。③オープニング式典に合わせた30分間の短いものと、④通常の1時間のものを開催しました。式典のコンサートの参加者が98名、1時間のコンサートの参加者が131名と、多くの方にお聴きいただきました。</p> <p>⑤季節のアートレッスン「木目込み人形づくり～明年の干支を作る～」です。市内の作家さんにご協力いただき、午後1時から午後4時で制作をしました。こちらも定</p>

員20名のところに大変多くの方の応募があり、ご無理を言って参加者27名、定員の135%で実施しました。

⑥「和紙の風船ランプシェード作り」、こちらはギャラリーの職員の方にご協力いただき、ナイトミュージアム期間中のワークショップとして開催しました。大変人気で行列が途切れず、3時間で114名にご参加いただきました。

⑦「羽根が光る！ちょうちょをつくろう」、バルーンの中にライトを入れて、羽根が光るちょうちょを作る、ナイトミュージアムのバルーンの展示に合わせたワークショップです。定員20組に対して15組の親子にご参加いただきました。

⑧「素敵にライトアップができる竹とうろうを作ろう！」、こちらもナイトミュージアム関連で、竹とうろうづくりのワークショップを開催しました。竹筒に穴を開けて光るとうろうを作りました。定員12名に対して多くの応募があり、13名で開催しました。

⑨竹楽器づくりです。竹とうろうづくりと同じ団体で県内の作家さんの、竹と触れ合い楽しむグループ「でらバンブー」さんにご協力いただき、竹楽器づくりのワークショップを開催しました。定員12名に対し12名の参加でした。作った楽器で実際に音楽を奏でるところまでやりました。

⑩の「スアラ・スクマ竹ガムラン演奏会」で、ワークショップで作った楽器でセッションして楽しんでいただく流れを演出していました。演奏会は午後5時から5時30分、午後7時30分から8時の2回開催し、それぞれ42名と64名の参加がありました。天候などの影響もあり、通常の演奏会よりは来場者が少なかったです。

次に、⑪キッズアートスペースとして、「絵画教室アートワーク 絵画～管楽器・ホルンを描こう～」という講座を開講しました。定員10名に対し応募が多く、参加者11名で開講しました。

⑫企画展「人々の暮らし」の関連ワークショップとして「スクラップブックづくり」。ペーパークラフトの一種で、写真をレイアウト、デコレーションするスクラップブックづくりを行いました。定員12名に対して8名の参加です。

⑬「ふしぎな球のランプシェードを作ってみよう！」、子ども向けの講座で、定員12名に対して13名の園児や小学生にご参加いただきました。

⑭「日本画入門講座・明年の干支を描こう」、香村先生に担当していただき、イノシシをモチーフにした日本画を描きました。こちらも大変多くの応募があり、定員10名のところ参加者17名という大変多くの方に参加いただきました。

⑮「ギャラリーコンサート」、12月22日、ゴスペルクワイヤー安城の方にご協力いただき、ギャラリーと歴史博物館のエントランスで、2回のコンサートを開催しました。クリスマスの演出としてすごくお客様に喜ばれ、小さなお子様にはクリスマスプレゼントとしてサンタさんに扮した出演者の方がお菓子を配布するなどの演出もありました。91名の参加です。

	<p>⑩以降は、今開催中の「木のおもちゃ展」関連のワークショップやイベントです。1月26日に1つ目のワークショップとして「フェルトのコロコロボールを作ろう！」を開催し、お子さんを中心にご参加いただきました。定員以上の応募があり、29名で開催しました。</p> <p>最初の日曜には⑪「ギャラリーコンサート」で、「木のおもちゃ展」に合わせてマリンバという木の打楽器の演奏者マリンバアートさんにご出演いただきました。入れ替わりもありますが、参加者205名と多くの方に演奏を楽しんでいただきました。</p> <p>2月に入り、⑫「プラ板であそぼう、キーホルダーを作ろう！」や、⑬「土鈴の絵付けを体験しよう！」を行い、これも多くの応募がありました。</p> <p>次のページをご覧ください。⑭「小さな木を組み合わせて、コースターを作ろう」です。午前は21名、午後は20名が参加しました。</p> <p>今後実施予定のものが、⑮「おはじきのスタンドグラス風キーホルダーを作ろう！」や、⑯「色砂で絵を描こう」というワークショップです。</p> <p>先程も説明しました⑰「懐かしの“車”写生大会&amp;写真撮影会」と、3月9日には企画展に合わせた⑱「ギャラリーコンサート」を予定しています。また、企画展の関連事業として⑲ワークショップ「革工芸・ミニチュア靴を作ろう」、市内の工芸作家さんにご協力いただき計画しています。</p>
石川	「(2)平成30年度市民ギャラリー事業報告について」、盛沢山の事業をありがとうございました。気付かれたこと、ご質問等がありますか。
丸山	各講座について、定員数がバラバラですが、この定員数は企画の方が決めるのですか。それとも募集しても人が少なかったからこの人数というふうにするのですか。我々が公民館活動等でやる講座は人数が全然違うので、その辺りがどのようなかお聞かせ願いたいと思います。
杉浦由	指定管理が開催している事業に関しては、20名前後が基本の定員数です。しかし、場所を要するものや制作時間の長いものは、講師と相談し10～12名の定員で開催することが多いです。定員数は募集時に定めているので、後から定員を変更することは基本的には行っていません。
丸山	20名くらいの制限があるのはある程度納得できるのですが、あの会場で10名だともう少し余裕があるのではと思います。版画などは結構場所を取るのも全部が全部ではないですが、平均的に10名くらいの講座があるのでもう少し間口を広げてもいいのではという気がします。
杉浦由	指定管理の今年度の講座で定員10名は竹楽器づくりですが、講師の方に下見をしていただいて作る環境を仮定したときに、竹を置いて工具を置いて……とすると、どうしてもスペース上12名でないと難しいということになり、安全面も配慮して定員を設定しています。他は20名前後で意識して設定しています。

	<p>子ども向けの講座については、大人の20人と子どもの20人は目の行き届き方が違うので、容易でないものは最大でも15名程です。講師と相談し、場合によっては人数を減らしています。</p>
丸山	<p>今私がやっている講座は24～25名です。会場は明祥プラザでそれほど広くはないですし、確かに講師はトイレに行く暇がないくらい忙しいですが、それくらいの人数でやるのも雰囲気盛り上がり良いかと思います。ありがとうございました。</p>
杉浦由	<p>ありがとうございます。検討させていただきます。</p>
近藤	<p>銅版画・リトグラフ講座について、土曜日にやっていると思いますが、版画講座は土曜日に限定ということですか。かなり申込が増えてきたというお話を伺って、平日にも参加したい方がいるなら、土曜日に限定でなく平日に開催しては。土曜日の使い勝手を、版画だけに限定しなければ他のことも出来るのではと思いました。</p>
荒木	<p>版画講座については、まず1つは講師の先生のご都合があり、都合がつく範囲で半期10回土曜日に来ていただくというお願いをしています。また2つめとして、人数が増え抽選となることの対応策を考える中で、受講生にアンケート調査をし「もし違う日で講座を設けるなら何曜日が良いですか」ということを伺ったら、大半の方が平日より土曜日の方が良いとのことでした。それにより、先生に来ていただく土曜日と隔週のような形で、特別コースを土曜日に入れました。皆様方、本当は一日やりたいと言われましたが、土曜日は午後に土器づくりがありそちらの方から半日にしてほしいと言われているため、特別コースは1時間延ばして9時～12時で行っているというのが現状です。平日の午前中なら空いていることも考えましたが、受講生のご希望として土曜日となった経緯があります。</p>
近藤	<p>では、創作実習室は土曜日はずっと版画講座となっているのですか。</p>
荒木	<p>そうですね。今申し上げたように1日コースをずらした場合、土曜日が毎週丸々全部版画講座というのはやめてほしいという要望があって、隔週で1日と半日という形で使っています。日曜日にその他の日本画や油彩画などを入れるということです。</p>
近藤	<p>その関連で、日曜には例えば人物デッサンや石膏デッサンなどをやっているようですが、それは大体3回講座ですよね。絵画というのは3回ぼっきりでは体験という程度しかできません。もっと深めないと中々レベルが上がらず、真髓が分かってこないのではと思います。継続的にやる人が増えると良いなあ。それが、今後の安美展の出品や、絵画をやる方が増えることにも繋がると思います。地元の絵に親しんだり、美術に親しんだりする方が、継続的に増えるようなスタンスでやってもらえたらと思います。その辺はいかがでしょうか。いかがといってもすぐ結論が出ることではないと思いますが。</p>
峯村	<p>創作実習室が貸し部屋ではないので難しい点もありますが、おっしゃることも分かります。一方で自主グループ等で公民館で講座をやっているグループもありますよ</p>

	<p>ね。我々としては、ここの講座できっかけとして入っていただいて、もう少し深めたいという方には、例えば文化協会の方が組んでいるグループを紹介するとか、自主グループでやっている公民館講座を紹介するとか、そのように次へ繋げるのも一つの手のような気がします。ここでやるとなると、助手を付けたり、準備をしたり、どうしても先生プラスアルファの部分が出て人件費的なことも考えないといけません。</p> <p>あと、創作実習室はギャラリーと埋蔵文化財センターの共用スペースとして考える必要があり、美術だけを優先する訳にはいきません。</p> <p>確かに講座を深めていくことは大事だと思っています。今回久しぶりに石膏デッサン講座をやりました。以前やった時に人数が減ってしまいしばらくやらなかったのですが、久しぶりにやったら結構人が集まりました。そういうわけで、内容をローテーションすると受講が増えるということを実感しました。ありがとうございます。</p>
杉浦直	<p>市民ギャラリーの目標人数が達成していないことについて、この目標を意識するならば、子どもの作品を入れることが大きいと思います。学校が夏休みの宿題を減らしている状況で苦しいところはありますが、現在各校3点のところを、各学年1点に。そのようにすると、子ども一人が作品を出すことで、両親、お爺ちゃんお婆ちゃんと、すぐに人数に表れます。小学校21校が6点出すと、それだけバックについている人は多く、目標を達成しやすくなると思います。</p> <p>もう1つ、学校側への配慮をしてくださっているとは思いますが、各校3点になると、沢山出さない分やらなくていいという感覚がどうしてもあり、優先順位的には下になったり作品を出さなくなります。交通安全ポスター等で各学年1点となれば、宿題として出す側としても「交通安全ポスターは描きますよ」となりますが、各校3点となると「まあそんなにいいか」となってしまうのです。各校3点は我々への配慮だとは思いますが、各学年1点になればもっと盛り上がり、人数も目標に近づくのかなと思います。</p>
荒木	<p>先生にご指摘いただいたのは、「人々の暮らし」という夏休み明けの展示のことで、これは、私たちとしては中々苦慮するところで、去年までは学校で代表者を選び3点出していただいていた。しかし、今年の教育委員会の方針で、ポスターも含めて自由応募という形が出されました。完全に自由応募になると宿題から外れてしまうため、係長が校長会等で「選ぶのはこちらでやりますからなるべくご協力を」という提案をさせていただいています。結果としては、今年は各校それなりに出していただけました。このようにご協力を呼び掛けていかないと、学校側で将来的に交通安全ポスターも含めて全部自由応募となってしまう。自由応募となると宿題でなくなり出なくなってしまうので、教育委員会がやっているものなので自由応募にせずにご協力いただきたいのが本音です。</p>

杉浦直	例えば、そこを6点にしたり、特別支援学級の子たちも出して良いとしたり。特別支援学級の子は中々選ばれないのです。だから特別支援の枠として出して良いとなると、もっと子どもたちの作品も出るかなと。来館していただくには子どもの作品を増やすことかなと僕は思います。
峯村	特別支援学級は福祉の方にも出していますか。
杉浦直	はい。出していますが、夏休みの宿題はポスターと同じように出すのです。出してもコンクールや学校の代表には中々選ばれないんです。
峯村	出してもらって構わないですよ。
荒木	今年は出してもらった段階では、作品が特別支援学級の子のものかどうかは分からないので、単純に並べて見てその中から選んだ形です。そういう枠があった訳ではなかったのです。
峯村	こちらとしては、特別支援学級からも出していただくことは可能です。
杉浦直	僕は今特別支援学級の担任をやっていますが、3点だと選ばれにくいからやめようという考え方もあるのです。もし文の中に、「特別支援学級の子どもも……」という一言があると、出したら飾ってもらえるかもしれない、と思います。僕は特別支援学級の子どもたちが前に出ることは大事だと思うので、そういう一言があると、特別支援学級からももっと出せるかなと。宿題としてはどちらにしるやっているので。
峯村	はい。その辺りも考えていきたいと思います。
丸山	この展覧会は、大人と子どもの作品を両方見れるという部分で、先程のお話のように、家族の皆さんが見に来るととても良い機会になると思います。昔に比べると力の入れ具合は少し弱くなった気はしますが、僕が塾をやっていると、前ほど学校からやってきなさいとは言われなくて、自由参加と言われるケースが多くなってきています。
杉浦直	ポスターはちょっとずつ自由応募など下火になっています。色々なテーマから2点選びなさいというのが、1点になり、ゆくゆくは描かなくてもよくなるのかなと思っています。冬休みのポスターはもう宿題にはなっていません。夏休みにやったものを、冬休みに募集があるものにも出すという感じになっています。
丸山	関係のないことですが、以前に比べると何であんなにポスターが多くなったのですかね。種類が多いし、学校によって紙の向きを縦だ横だと指定しているところもあれば自由なところもあってバラバラ。昔は大体小学校だったら決まりがあったけれど、今は学校単位でバラバラです。前もってポスターに取り掛かったら紙の縦横が違っていたということがあって、指導側としてはとてもやりにくいなと思います。
杉浦直	縦横や何を使うかの指定は、主催者側から来るのです。
丸山	主催者側から来るのは、以前は小学校なら横だったのです。5年生のところに行くのだけど、学校によって、うちは縦ですよ、横ですよとか。
荒木	交通安全ポスターで縦横指定している学校はありますか。

杉浦直	今多いです。冬休みの交通安全ポスター展が縦指定なので。でも夏は指定がないのです。だから冬休みに宿題が無い分夏休みに一気に書かせるとなると、冬休みに出す分も考えて縦に指定をしておいて、夏休みに出すもの、冬休みに出すものと分けられるようにしておく。
丸山	冬休みは宿題としてはいいですね。
杉浦直	はい。でも応募としては来るのです。
加藤	今びっくりしたのですが、縦横は揃えた方がいいのですか。
丸山	例えば交通安全だったら多分JAに行くと思いますが、同じJAに行くならなぜ縦も横もと規制しなければいけないのか。横なら横で前のように一律でやってくれれば。学校によって違うというのは、受け取る方はどちらでもいいということなのか。夏休みに入ってプリントを貰って初めてこの学校は縦だ横だと分かるというのは、事前に一生懸命やらないとそういうものは描けないから困る。今ポスターが多いでしょ。それプラスギャラリーの企画があると子どもたちもとても忙しい感じがします。
荒木	縦指定は国の交通安全ポスターだけではないですか。他のものは自由なので。私が行っていた学校では、夏に縦横両方出てくるので、縦の良い作品を冬用にとっておいて、夏出す作品には選ばない、というふうにやっていました。そのような学校がほとんどです。冬は宿題にはしません。
加藤	そんな指定があるなんて思ってもみなかった。
荒木	想像で言うてはいけないかもしれませんが、私が思うに、ものすごい数のポスターがある中で皆が考えるのが、学校に言うて何でも出てくるので、教育委員会に働きかけてこれを是非学校でやっってくださいと来るんです。教育委員会でもなるべく断るようにはしていても断れないものもあり、その断れないものを一覧にして市内各校に出すのです。どの学校でも市教委から来たそれを見てやっているので規定は同じなのです。ただ、取り扱いとして、どこかの学校が縦指定をされたとするならば変わった学校です。夏は基本的には市から出たものをそのまま出しているはずなので、それを交通安全ポスターに関しては縦のものを冬に回し、子どもの宿題を減らすことに配慮しているだけだと思います。
丸山	夏休みの宿題の話になってしまいましたね。
荒木	そうですね。ということで、負担軽減として、今年教育委員会から自由応募を原則と出しました。
石川	去年文化協会でもポスターの選考があって、1, 800枚ありましたが、並べて見る分には縦横はそれほど苦にはならないね。また選ぶ側としても苦にはしていないということです。自由な性格で出されたものが一番ですね。 その他にありますか。よろしいですか。

(3) 平成31年度市民ギャラリー事業計画について

石川	<p>それでは次の協議事項に移ります。「(3) 平成31年度市民ギャラリー事業計画について」ご説明をお願いします。</p>
峯村	<p>20ページをご覧ください。展示についてご説明いたします。</p> <p>①年度が変わり、6月8日から7月15日に市町村立美術館活性化事業として共同巡回展を予定しています。東京の府中市美術館から創作版画をお借りして、上田市立美術館、掛川市立二の丸美術館、須坂版画美術館・平塚運一美術館、勝央美術文学館の5館で共同で開催する事業です。全体で1,200万円の助成金を貰って実施します。今回山本が学芸員として参加してこの企画を練っています。500円の有料展で行います。創作版画とは、江戸時代の浮世絵とは違って、一人の作家が原画、彫り、刷り、すべての作業を行って制作する版画です。明治時代の初期の、山本鼎が作った《漁夫》という作品が創作版画の最初と言われており、その作品もお借りできるということです。山本鼎は、岡崎出身で、村山槐多がいとこにあたる人です。その他、川上澄生、恩地孝四郎、谷中安規、前川千帆、関野準一郎、浅野竹二、棟方志功などの作品を借り、大々的に展示をします。約120点程展示しますので是非ご覧ください。開会式を6月8日の午前中に予定していますので是非。時間は決まり次第ご案内します。関連事業は3つのワークショップと講演会を予定しています。消しゴムはんこ作りを行ったり、岡崎に住む版画作家ディヴィッド・ストーンズさん、多摩美の教授でプレス機を使わない足踏み版画で有名な佐竹さんに来ていただきます。それから、愛知県立芸術大学名誉教授の磯見輝夫先生の講演会を予定しています。</p> <p>②企画展「花の彩、草木の緑」、こちらは先程も話があった夏休み明けの企画展です。10月5日が安祥文化のさとまつりで、その日を含めての展示です。</p> <p>③安美展です。例年通り開催を予定しております。</p> <p>21ページをご覧ください。④企画展「心に響く風景画の魅力」は、年が明けた1月31日から2月15日に、収蔵品の展示を行います。今のところ水墨画、日本画、洋画で、高須芝山など地元作家の作品を含めた展示を考えています。</p> <p>指定管理をお願いします。</p>
杉浦由	<p>①は先程からご紹介していますが、「懐かしの“車” 写生&amp;写真作品展」、年度をまたぎ3月27日から4月7日にDE室で開催する予定です。</p> <p>次に②、4月17日から4月29日の12日間、「時代を駆け抜けたモーターバイク展」、1950年代に誕生した懐かしく珍しいモーターバイク20点以上の展示を予定しています。DE室で開催予定です。</p> <p>③ナイトミュージアムの関連展示として、8月27日から9月1日の12日間、最終の8月30日、31日、9月1日はナイトミュージアムとして、午後8時30分までの夜間開館を予定しています。内容については作家と調整中です。</p>

荒木	<p>美術講座については、テーマや内容は、講師の先生と相談して変えているものがありますが、おおよそ本年度と同様の講座を実施する予定です。前期講座については、日程等も決定し、現在、生涯学習情報誌「あんてな（春号）」で受講者を募集するように準備を進めています。なお、一文加えたのですが、来年度から定員を超えて抽選となった場合は、市内在住、在勤、在学の方を優先することを募集要項に記載していくことになりました。</p>
峯村	<p>今お話のあった、在住、在勤、在学のことについて、以前受講者の中で、定員を超えた場合に市内の人を優先しないのはどうかというご意見がありました。すべての講座が定員を超える訳ではなく、人気のある人物デッサンや日本画など限られた部分ではありますが、定員を超えた場合は市内在住、在勤、在学の方を優先することになりましたので、よろしくお願いします。</p>
杉浦由	<p>続いて、指定管理の美術講座・イベントです。</p> <p>はなが遊園地の関連事業として、①「ギャラリーコンサート」を6月8日に行います。式典に合わせた午前のミニコンサートと、午後のコンサートで、はなが遊園地というタイトルで華やかにということで、サクスの演奏者を予定しています。</p> <p>季節のアートレッスン②③が同一の講師で、「糸かけ曼荼羅アート講座」と「ローズウィンドウ」、こちらはまだ調整中です。ローズウィンドウは、ペーパーアートでステンドグラスのようなものを作る講座です。</p> <p>23ページ、④季節のアートレッスン「似顔絵イラスト体験講座（上級編）」です。こちらが大変人気で、アンケートを取る中で是非上級編もというお声があったので、来年度は上級編の開催を予定しています。</p> <p>⑤も今年度大変人気のあった「型染め・染色連続講座」です。</p> <p>絞染も前に開催したのですが、大変人気だったので、⑥「絞り染め講座」の開催を予定しています。</p> <p>⑦キッズアートスペース「背景デッサン講座」は、近藤先生に講師を依頼します。</p> <p>また子どものアートで、⑧「アートワーク絵画」を開催する予定です。</p> <p>他の後期の講座の内容は決まっていますが、単純なものではなく、少しアート性の強いしめ縄講座など、季節に関連した要素がある講座を予定しています。</p>
石川	<p>ありがとうございました。（3）について、何かご質問、ご要望等ありましたらお願いします。加藤先生、近藤先生、講師をよろしくお願いします。</p>
近藤	<p>意見ではないですが、6月の版画の展示は、先程話を聞いたら、とても良い展示会になりそうだと思います。ここで展示したことのない山本鼎など、有名というか、皆さんが知っている作家の作品が展示されるということで、楽しみにしています。よろしくお願いします。</p>
石川	<p>他にご意見等ございませんか。よろしいですか。</p>

(4) その他

石川	それでは最後、「(4) その他」をお願いします。
峯村	<p>事務局から説明させていただきます。</p> <p>一般の方にギャラリーを利用させていただいていますが、議員さんの祝電を展示室で飾られた方がおられ、一部一般の方から、祝電に大きな顔写真があり選挙っぽい感じを受けるというご意見がありました。全ての議員さんがそういう訳ではないので、それほどのことではないとは思っていますが、そういったご意見があったので、一応皆さん方にお聞きしたいです。</p> <p>市でやる展示の開会式などで祝電をいただいたときには、展示室ではなくその会場で掲示することはありますが、一般の利用者の方々は、皆さんの協力で展示をされているということもあり、掲示したいという方もおられます。市がそこまで言及することはないかと思うのですが、先生方はどうでしょうか。</p> <p>問題なければこれまで通りご自由という形でいきます。色々な方から協力されて展示をされている団体もあり、大きい団体は特にそういうことがあるので、特に問題なく今まで通りでよろしいでしょうか。</p>
丸山	<p>去年そういう話を聞きましたが、どこに出しているのか。ご本人がみえた時にすぐ失礼な扱いもいけないし、ということですね。</p> <p>大体皆さん会場の中に飾りますが、例えばこういう展示方法なら良いと決めていただければ、それが一番いいのかなと思います。</p>
峯村	<p>おそらく議員さんが結構大きな顔写真で祝電を出されたことがあり、その印象でおっしゃったかと思うので、市はそこまで言いません。たまたまそういった話題があったということです。</p> <p>出し方はそれぞれ色々な団体があって良いと思います。最初に出すところもあるし真ん中や控えたところやいろいろ、自由にやっておられますので。</p>
大見	受付が通路にあるので、その後ろに貼るのはどう？
峯村	最初我々は受付の机に貼る程度にしたらどうかと言ったのですが、団体によっては展示したいという人もおられて。
大見	展示室の中なら仕方ないかなという気がしないでもないけど、廊下や通路は一般の人が通る。
峯村	廊下に展示することはないですね。
大見	やろうと思えば受付の後ろくらいにできるのでは。
峯村	そこまで許可していません。机の前に自分の団体のチラシを置く程度です。
大見	前ならいい？
峯村	そこまでならいいと言っています。ただしそこに祝電は置きません。大体団体のチラシやポスターぐらいです。

大見	展示室の中ならお任せだけど、外だと……。
峯村	机の上に置く場合もあります。
大見	それなら受付の机の上までなら良いとか。
丸山	大体皆さん中ですよ。
峯村	<p>それが多いですね。ギャラリーだと中の方が多いです。あまり展示の仕方はこちらがとやかく言うのもどうかという感じがします。またここで協議する必要が出たらご相談します。</p> <p>それから、市民ギャラリーは4月から利用料金が上がります。利用者にはすでに文書でご案内しています。この4月の支払い分から、1日あたりA室は60円、BCDE室は100円アップです。</p> <p>そして、年度が変わった平成31年度9月2日から来年の3月31日まで、歴史博物館のエントランスが、天井の改修工事に入ります。それに伴い、歴史博物館が休館し、喫茶のぷらす珈琲もお休みになる予定です。歴史博物館側の駐車場も工事車両等で一部利用できなくなります。入り口は今まで通り歴史博物館側から入ることはできます。ご協力をお願いします。</p>
石川	ありがとうございました。以上で協議事項を終了します。ご協力ありがとうございました。

### 3 連絡事項

山本	ありがとうございました。続きまして事務局より連絡事項を申し上げます。
峯村	<p>チラシを何枚かお配りしています。今やっている「木のおもちゃ展」は招待券も入っていますので、もしご覧になっていなければ是非。「素材と造形美の融合」と、指定管理者の企画展「懐かしの“車” 写生&amp;写真撮影会」は、3月2日にクラシックカーが来るということです。歴史博物館では「江戸の愉しみ」を開催しています。「福寄せ雛」は2月2日から3月24日まで、館内で展示していますので、またお楽しみください。</p> <p>また、6月8日に先程言った共同巡回展の開会式がありますので、ご多忙中ではありますが、是非先生方にご参加いただきたいので、よろしく願いいたします。</p>
山本	それでは、これもちまして、安城市民ギャラリー運営委員会を閉会します。本日はありがとうございました。